

いなば

No.65

■発行所/社会福祉法人 三重県厚生事業団
三重県いなば園
〒514-1252 三重県津市稲葉町3989番地
■TEL / (059)252-1780
■FAX / (059)252-1374
■発行/2016年12月

●ホームページアドレス
<http://www.inabaen.com>

●メールアドレス
kanri-1@inabaen.com



色とりどりの
四季彩の中、
今日も
いなば園の一日が
始まります。



今年一年を振り返って

三重県いなば園 園長 青木 徹



平素は当園の運営、活動にご理解ご支援を賜り、心より感謝申し上げます。今年には私たちが障がい福祉に関わる者として、忘れることができない年になりました。

二月に当園にて支援中一人の利用者の尊い命を亡くしてしまいました。

七月には神奈川県相模原市の津久井やまゆり園で起きた事件は身が震えました。利用者十九名が殺害され、二十七名が負傷する痛ましい事件でした。一人ひとりの命の重さは、私たちと同じであり、心に一生抱きかかえ毎日、手を合

わせる日々が続いています。

障害者権利条約を平成二十六年に日本が批准して、障がいのある方の生活全体が、社会で自然に受け入れられていると実感する機会も増え、日本国憲法第十三条にある「すべての国民は個人として尊重される」が実現されていく光が見えてきたと感じていました。私たちの施設でも社会参加と共生社会を目指し、利用者個人を尊重する支援を今以上に進めようとしていましたが、事故、事件が起きた。これまでの全てを否定された気持ちになりました。

事件を受け施設運営においては、利用者の皆さんに今回の事件についての説明を行い、安心した

生活が送れるよう職員がいつでも近くで見守ることを伝えました。職員防犯研修、敷地内の死角場所調査、環境整備を行い、防犯カメラの設置を行いました。

そのような状況でしたが、施設での暮らしは過去から現在そして未来へとつながっています。事件の後も、利用者は「怖い」と思いを職員へ伝えながらも、行事や外出も楽しみにされ変わらず元気に生活されています。

私たちは、今年起きたことを今一度、真剣に受け止め、今まで以上に利用者個人を尊重していき、その人らしさを大切にするため、育った環境、家族関係、好き嫌い、得意なこと苦手なことなど丁寧に深く知るよう努力していきます。そして何よりも大切なのは職員間だけでなく、利用者に関係する多職種の人たちとも共有する

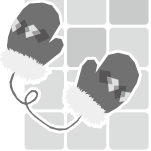
こと。この情報の共有こそ、意思表示の苦手な利用者の人権を守る要になります。

亡くなった命から学ぶだけでなく、同じ悲しみを二度と繰り返さない具体的な取り組みを行っていくことが、今を生きている私たちの責任です。



スマイルいなば

(生活介護・短期入所)



地域支援課 生活支援員 西村 健太郎

四月に「スマイルいなば」が開所して、八か月ほどが経ちました。最初は利用者、職員ともに距離を探り探りの中のスタートとなりました。

「スマイルいなば」では普段の活動として、散歩と音楽療法などを行っています。

散歩は三〜五人ほどの小集団で園内を歩いており、音楽療法は楽器やシャボン玉を使い、視覚や聴覚から楽しんでいただけるようにしています。その他にはそれぞれの能力や好みに合わせて、したいこと・できることをしていただいています。夕方になると寛がれる方も多く、みなさんでソファに座り、テレビを見ている場面を多く見かけます。

これからも集団としての活動と個別としての活動の二つを織り交ぜながら、利用者の皆さんにとって楽しく、落ち着いて過ごしていけるようにしたいと思います。



工房いなば

(就労継続支援B型・生活介護)



地域支援課 生活支援員 小河 百恵

多機能事業所「工房いなば」は、就労継続支援B型二十一名と生活介護十一名が利用されており、自宅・GH・寮から通われています。

工房の一日は、農園で無農薬野菜の栽培・収穫・販売、音楽療法に使う楽器の生産、喫茶たんぼほの営業、さをり織り、創画、コラーージュ等をグループや個人で行っています。その他にも作品販売、ボランティア活動、委託事業に取り組んでいます。それぞれ工房に通う思いや考えは異なり、取り組む意欲もバラバラです。

活動・作業内容は本人に合わせた内容に変えていき、取り組みにくいと思われる方には、その人に応じた内容や環境をつくるよう努めています。就労につながる作業所に来ることを楽しみにしてもらって、本人の出来ることが増えるような工房にしていきたいです。



グループホーム

(共同生活援助)



地域支援課 生活支援員 上川 悦子

三重県いなば園が運営するグループホームは、近隣の団地・美里ホームランドを中心に四軒あります。

グループホームでは利用者の皆さんに心豊かに生活していただけるように、さまざまな取り組みをしています。そのひとつとして、月に一回、各ホームで勉強会を開催しています。テーマは利用者さんのニーズに合わせて毎月決めていきます。八月には三重県歯科医師会様より歯の模型をお借りして、歯の磨き方の勉強をしました。

皆さん、真剣な様子で話を傾け、わからないことは積極的に質問してくださいました。勉強会終了後には「よくわかった。」と感想を言っていました。今後利用者さんの生活の質が向上していくように支援を続けていきたいと思っています。



すずきのき寮

(施設入所支援・生活介護)

生活支援員 庄島 和彦

私が勤め始めた頃の春の姿は、とうの昔に過ぎ去ってしまい、冬の足音が近づく季節になりました。

ここ、すぎのき寮では、利用者の皆さんが主体で動き、必要な場面では職員の手を借りて、日々暮らしてみえます。掃除、身支度、食事の準備等を、職員と利用者様、皆で協力し合い、毎日をごとしています。利用者の方が、それぞれ出来る事を、職員は細かく把握し、良いところをどうすれば活かせるか、考えながら日々の支援に取り組んでいます。

また、お出かけする機会も多く、私自身、皆さんと一緒に色々な場所へ行き、様々な経験が出来ました。

新人職員として、利用者の皆さんと共に、毎日一歩ずつ前へ歩んでいけるよう、これから頑張っていきたいです。



かしのき寮

(施設入所支援・生活介護)

生活支援員 安野 孝紀

「利用者さんと、良い関係を築くことが、良い支援に繋がる。」入職してから、この半年間で学んだことです。

最初は目を合わせてくれなかった利用者さんが、今では目が合うと傍に来てくれるようになりました。散歩が好きな利用者さんは、腕を絡ませて「一緒に歩こう」と誘ってくれます。漫画が好きな利用者さんは、「一緒に本を読もう」と声をかけてくれます。

日々、コミュニケーションを積み重ねることで、少しずつ利用者さんとの関係を作ることができたのかなあと実感しています。

好きなこと、嫌いなこと、得意なこと、苦手なこと…。

まずは、利用者さんの「ありのまま」を受け入れ、夢や希望を実現できるように寄り添ってお手伝いできたらと思います。



もみのき寮

(施設入所支援・生活介護)

生活支援員 西岡 大輝

四月に私を含めた新職員が多数もみのき寮に配属となり、フレッシュな人材が揃いました。もみのき寮の利用者の日常が分かる写真と一緒に、玄関のロビーに顔写真を掲示してあるので、ぜひ見に来てください。

十月にふれあい祭があり、もみのき寮ではカラオケを行いました。そのため、余暇時間を利用して、皆さんで一所懸命に練習しました。音楽を流すと、自ら集まってくる方がいました。笑顔を見せたり、体で拍子を取っている方もいました。発表当日は、皆さんが一つになり、練習の成果を発揮できたことに感動を覚えました。

新年を迎えると、正月、節分、ひな祭りといイベントがたくさんあります。利用者の皆さんが楽しく過ごせるような企画を考え、寄り添って支援していければと思います。



くすのお寮

(福祉型障害児入所施設)



保育士 谷口 安奈

くすのき寮の子どもたちは起床から就寝まで学校に行く時間も含め、決まったスケジュールで生活をしています。軽度領域の子どもたちが増えてきている現状ですが、子どもたちとの関係性が良好になるにつれ本当の姿や困り感が分かり、それぞれに必要な支援が見えて日々の暮らしに繋がっていくと感じています。みんなの失敗や成功を私たちは観察していますが、その過程で成長していくのは子どもたちだけでなく私達職員も同様です。彼らの困り感に気づかされ、困り感を理解し、どのような支援の仕方が適当だったのかを振り返ります。子どもたちとの関係性が重要なファクターとなっており、日々のみんなの成長が、私にこの仕事のやりがいや喜びを与えてくれています。



プリズムの様子

(児童発達支援・放課後等デイサービス)

児童指導員 大倉 秩子

朝九時、児童発達支援を利用していただいている子どもさんたちが、保護者の方と一緒に次々と通所されます。「おはようございます！」元気よく朝の挨拶をし、保護者の方から子どもさんの様子をお聞きすることから「プリズム」は始まりです。子どもさんたちが揃った所で、プログラム①はじまりのうた ②おんがく ③トイレ ④おちゃ(おやつ) ⑤おべんきょう ⑥じゆうあそび ⑦さよならのうた ⑧おむかえを一緒に確認し、その流れに沿って進めていきます(スタッフ番号を言う活動名を先に答えてくれる子どもさんもいます)。

児童発達支援・放課後等デイサービス合わせて六十名ほどの方が利用されており、名前を覚えるだけで必死でしたが、可愛い笑顔とパワーに励まされ、子どもさん達の成長・発達を見守り、支援させていただいていることに喜びを感じています。そして自分自身も子どもさんと共に成長していきたいと思っています。



いなば園での看護師とって

かしのき寮 看護師 岩城 道子

いなば園では、平成二十七年年度から、看護師が各寮に机を置き、仕事をさせていただくようになりました。

毎朝、必ず、元気にあいさつをしてくれる方が、今日は声をかけて来てくださらない、「どうされたのかな」と様子を見に行くと、てんかん発作の後で休まれていることがあります。しかし、その後も、必ず日課にされているさをり織りに行かれます。

看護師として、体調不良時の対応だけでなく、側にいることで身近に個々の生活スタイルを知ることができ、サービスマン管理責任者・支援員の方々と共に少しでも健康に、その人らしい日常が送れるように関わることができ、楽しく感じています。「おながが痛い」と訴えられる方も、「今日あったこと、楽しかったことはなに？」と聞くことで少し元気になる姿もあります。

まだまだ模索中ですが、看護師としてこれからの利用者の方々のお役に立てるように楽しく勤めていきたいと思えます。



納涼大会をふり返って

実行委員長 武田 和子

夏真っ盛りの七月三十日、「第三十八回いなば園納涼大会」を行いました。

明るく太陽から花火が映える夜に、忘れられない一日を過ごしました。利用者さんは、色鮮やかな浴衣や甚平を身にまとい、普段とはガラリと雰囲気が変わる夜のお祭りを、とても楽しそうにされていました。特に、利用者さんのアトラクションは花火に負けないくらい皆一人ひとり、ダンスや歌が光輝いていました。店舗運営に携わった利用者さんは、納涼大会運営者の一人として、商売上手な売り子さんに変身していました。利用者の皆さんの、たくさんの笑顔がありました。

今年是他県での不幸な事件もありましたが、利用者さんやご家族の皆さん、地域の皆さんの力をお借りして、無事終えられた事に感謝を申し上げます。



ふれあい祭をふりがえって

実行委員長 昌山 尚熙

ふれあい祭は十月二十三日の日曜日に行われました。当日は曇り空となり少し肌寒い気候となりました。そんな中、各寮・グループの発表では利用者の方々が踊ったり歌を歌ったりして、多くの参加者の笑顔が見られました。

また、高宮小学校のマーチングバンド演奏はオープニングを盛り上げて頂き、榎原湯の瀬太鼓の太鼓演奏は、とても迫力がありました。その他、模擬店も多数出店しましたので、利用者さんにも楽しんで頂けたと思います。

今年度は、会議の段階から利用者さんに入って頂いて、利用者さんの意見を参考に進めたいと考えていましたが、どうしても支援者中心になる部分もありました。来年度は今年度の反省を生かして、さらに利用者さん主体で意見が反映されるようなふれあい祭にしていきたいです。



三重県いなば園生活介護作品展

すぎのき寮 生活支援員 秋田 裕太

この作品展では、障害者支援施設利用者の皆さんが、日中活動にて制作した作品などが展示・販売され、利用者さんご家族をはじめ、たくさんの方に会場いただきました。

家庭班のブースでは、利用者さんによるさをり織りの実演、軽作業班のブースでは封筒やコースター作成の実演があり、利用者さんは真剣な表情で作業に打ち込んでおり、見学していた方々に声を掛けていただきました。創作班では、利用者さんが丹念に制作した絵画や、造形作品が展示され、見学者の目をひいていました。午後からはすぎのき寮利用者による、すぎのきバンドの演奏が行われ、流行の曲のダンスを披露するなど、出演者も観客も一緒になって楽しんでいただけました。作品展を今後も続けることで、利用者さんの日々の活動をご家族や地域の方々に知っていただき、利用者さんの施設生活の楽しみや励みにつながるよう次回に向けて頑張ります。



防犯対策について ～園としての取り組み～

管理課 課長 伊藤 学

七月二十六日未明に神奈川県相模原市の「津久井やまゆり園」で起こりました殺傷事件には、本当に驚き、衝撃を受けました。当園では、その週の七月三十日に納涼大会を予定していたため、すぐに対応策を検討しました。

まず、もしもの時に不審者を取り押さえるためのサスマタを購入することとなり、ホームセンター等を回って、何とか手に入れました。また、納涼大会当日に警察官を派遣していただけるよう、津南警察署に依頼し、実際、警察官二名の方に来ていただきました。職員も防犯を意識して定期的に見回りを実施するなど、限られた時間の中ですぐに取り組めることを実施し、無事、納涼大会を終えることができました。

その後、警察の夜間巡回経路に指定していただくとともに、日常の防犯対策として、園内に防犯カメラを設置しました。また、九月二十九日には講師として警察官の方をお招きし、職員に対する防犯講習会を開催しました。この防犯講習会では、サスマタの使い方の説明をしていたとき、実際に参加した職員全員がサスマタで不審者を取り押さえる訓練をしました。サスマタを使用するときは、

「不審者の手が届かない距離を保つこと」、「一人に対応するのではなく、できるだけ複数の職員で対応すること」が重要であると教えていただきました。

このようにここ数か月の間、設備備品などのハード面と、警察との連携や職員研修などのソフト面から防犯対策を実施してきましたが、福祉施設の防犯対策は、「開かれた施設」であることが前提であると考えています。今後も「開かれた施設」として、利用者様が多くの方々と交流する機会をできる限り制限しない形で、安心安全に過ごしていただけるよう考えていきたいと思います。



いなば園紹介映像 制作委員会

製作委員 西 井 雅 治

現在、私たちの委員会では、いなば園を訪問された見学者の方や新規職員を対象に、いなば園の内容をより理解してもらう為の紹介映像を制作しています。

この取り組みでは、各寮やプリズム、工房いなば、グループホーム、スマイルいなば等で過ごす利用者さんの活動や支援にあたる職員の姿を紹介するものになっています。

また、この委員会は今年度採用された新規職員を中心に構成されており、私たち自身も、いなば園のことをより深く知る機会にできればと思っています。



笑顔いっぱいギャラリー

